令和元年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞　総務大臣賞受賞

# 廃校を利活用して、ふるさと岳間を思う、みんなの想いを形に

## 熊本県山鹿市　特定非営利活動法人岳間ほっとネット

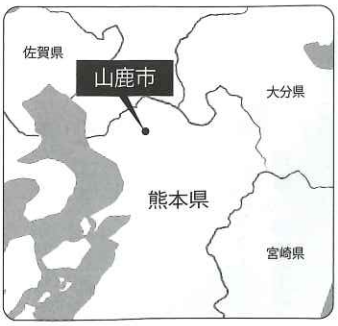
### ないものねだりよりあるもの探しで地域づくり

熊本県山鹿市鹿北町岳間地区は、福岡県との県境に位置する。四方を山に囲まれていることから「山岳」の「間」に住んでいるから岳間（たけま）と名前がつくほど総面積の約8割が山林の中山間地域である。人口は、14集落で811名、315世帯。平成25年4月1日は、979名、325世帯だったことを考えると典型的な過疎地域である。地域に医療機関はなく、路線バスも廃止、平成25年には小学校が廃校になった。さらに平成29年度には保育園が閉園になった。高齢化率約45％、少子化、仕事なし、若者なし、なし、なし、なしという「ないものづくし」の地区であった。

ないものづくしの地区だが、「なんとかせねば」ということもなく、地元住民はとにかくのんびりと暮らしていた。しかし、平成25年3月の廃校が決まると、平成24年度に「このままではダメだ」と立ち上がったのが、14集落の区長グループ。「岳間を考える会」を立ち上げ、自分のふるさとを考えてみようと呼びかけた。熊本市の大学生に協力してもらい地元住民へのインタビュー（3人の学生が4日間で53人に実施）や全世帯を対象としたアンケート調査。さらに、熊本の人気タレントによる講話等を実施。見えてきたものは「ふるさと岳間が好きでたまらない」という地域愛だった。

そこで、ないものねだりよりあるもの探しをしようと、岳間の良さを見つけだした。岳間茶、おいしいお米、清流、山菜、タケノコ、シイタケ等、なにより、普段食べているものが、おいしすぎるということに気付いた。そして、あったかい岳間の人柄も、岳間ならではの良さだと気付いた。

山岳に囲まれていることから「岳」の「間」、岳間と名付けられた



「見つけた良さで岳間を元気にしたい」と、平成25年度には廃校になった岳間小の活用計画を話し合った。自分たちで知恵を出し合い、行政にお願いできるところは依頼。平成26年度には、家庭科室の一部を改装して営業許可を取得して貸し出しカフェスペースに。教室の一つは、いただいた畳を敷いて和室に。本が1冊もなかった図書館は全国からの寄贈で6000冊の本を集め森の図書館として復活させた。他の教室は不必要になったソファをいただき憩いの場に変身。段差の部分では地元の大工さんがテラスデッキを設置する等して、廃校が生まれ変わった。誰もが、ほっとできる場所を目指そうと「ほっと岳間」と命名した。

## 現在の活動

### ①岳間うまかもん教室を通した岳間の食材の宣伝

今年で4年目になる料理教室。1年間参加可能な30名の教室生を募集し、毎月1回、岳間でとれた食材だけを使った料理教室を行っている。教室生は熊本市や福岡県から毎月足を運ぶ。講師は、地元のお母さんたち。栗だんご、こんにゃく、ナスの辛子漬、ラッキョウ漬、味噌づくり、里芋だんご、タケノコの煮物等50種類以上を指導。お母さんたちの手作り昼食メニューも人気で、その料理の指導も合わせると200種類ほどにのぼる。

大人気の岳間うまかもん教室
地元の女性が旬の食材で作る料理教室

高級な調味料を使わず、私たちが当たり前に食べているものが「おいしい、ご馳走」と絶賛され、地元が逆に感動するほどである。

### ②貸し出しカフェで起業化支援

様々な人が貸し出しカフェを利用して、1日カフェを営業した。農家の担い手による農カフェ、こんにゃく製造販売グループによるこんにゃくカフェ、麹研究家による麹カフェ等、様々な方が挑戦をされている。ここでの営業をきっかけに、起業された団体もある。介護保険を利用されていない人を対象とした市運動型通所事業（はつらつ学校）への貸し出しも行っている。

### ③田舎でも学べる環境、いろいろな教室の開催

田舎に住んでいるから何もできないという若者が都会に流失しないよう、また、岳間での暮らしをさらに満喫できるように、ヨガ教室、絵手紙教室、英会話教室、短歌教室、パン教室等を毎月または定期的に開催している。要望があれば、教室を増やしていく予定である。地元の人たちが普段着のままで、気軽に学べる貴重な場となっている。その様子が楽しいのか、近年は福岡方面から参加する人たちもいる。

グラウンドでは、70名がグラウンドゴルフ愛好会を立ち上げ、健康増進も図っている。

### ④イベントとSNSでの宣伝と交流

岳間のファンを増やそうとイベントも開催している。年に4回は、岳間の小学生等がいる若いお母さんたちと岳間の森で「マママルシェ」を開催。30店舗が3教室に出店し、テラスデッキ等でのワークショップや貸し出しカフェを利用したパン屋さん等、チラシも手書きで、あるもので実施している手作りのマルシェだが、第11回を迎えた5月は400名の来場者で賑わった。また、ほっと岳間から5キロ先にある岳間渓谷まで歩く岳間渓谷ぐるっとウォークは、今年で12回目を迎える。3月は道沿いに桜や水仙が咲き乱れる時期と重なり、県内外から500人が訪れる。岳間茶やタケノコ煮しめでのおもてなしも人気のヒミツらしい。また、5名でフェイスブック「ほっと岳間」を立ち上げ、情報発信している。試行錯誤だが、70代のメンバーも積極的に更新している。

また、地元の熊本日日新聞の折り込み紙「あれんじ」の企画・里山日記インかほくでは、読

者を受け入れ、体験活動を通した宣伝を行った。

**⑤子どもたちの支援**

子どもは地域の宝である。鹿北中学校等が、国際交流活動をする時は、ここで昼食バイキングを提供する等、積極的に支援している。また、出張子育て支援センターにも図書館等を提供している。また、労働不足の高齢農家に就農支援の大学生をマッチングさせてインターンシップも始めた。その大学生の協力で、「たけまあそび」という冊子を完成させた。

「マママルシェ」では、少子化の影響で吹奏楽部がなくなり（コンクールに出場できない）、鹿北中学校音楽部として部活動をしている子どもたちに発表の場を提供しようと岳間の森で青空コンサートを企画して開いている。

畳の部屋でのマルシェの様子

**⑥お母さんたちのおせち販売**

一昨年からスタートしたのが、おせちの販売。エビ以外のほとんどを岳間の食材で作る9マスのおせちは、すべてお母さんたちの手作り。一昨年は100個限定だったのが、宣伝は口コミと100枚ほどの手作りチラシのみにも関わらず、昨年は注文がありすぎて、250個になったほど。今年もすでに問い合わせが入っている。年末に遠くは、福岡市から買い求めにこられる。

これらは、岳間にもともとあったものを生かした活動がほとんど。ないものねだらず、あるものを生かし、岳間を活性化させたいと願っている。

## もともとあった「宝」を生かす

清掃活動は、地元住民がボランティアで行っている。ほっと岳間は、石垣の上に立っている。その石垣の草取りは、グラウンド・ゴルフ愛好会のメンバーがされている。また、近所の主婦が、毎日歩く道だからと、石垣の草取りと付近の掃き掃除をされている。また、マルシェ前には、お母さんたちがトイレ掃除や廊下の掃除を担う等、愛校精神が息づいている。また、花壇の花植えは理事が行っている。

ほっと岳間でも懐かしい写真や卒業記念作品、記念樹はそのままにしている。森の図書館は、自由に誰でも本を借りることができるようにしている。また、和室以外の教室では地元鹿北写真部による写真展を開催する等、催しや教室、イベントがない時期でも入館し楽しめる仕組みにしている。平成28年度には年間3000人の来場があり、平成29年度には約6000人、平成30年度には約8000人の来場があった。岳間地区の人口は811人であるため、まさに約10倍の人たちと交流したことになる。

特定非営利活動法人岳間ほっとネットの活動は、女性の力が大きい。うまかもん教室やマルシェの開催、おせちづくり、SNSでの情報発信等、活動の中心が「食」。よって伝える力が大きい女性の力に支えられている。この女性の力も岳間に、もともとあった「宝」であるといえる。その宝を生かした活動が、このほっと岳間を大きく躍動させたといえる。

私たちの目標は、「岳間の元気とあったかさを伝える」ということ。そして、畑で収穫した野菜で料理を作る、田んぼでコメづくりをする、山や川で遊ぶ、川には魚やホタルがいて…という当たり前の日常生活を、ここ岳間で持続することが最終目標。そのためにも、たくさんの人と交流をしながら、岳間の良さを伝えていきたい。

活動内容は、「できるしこ（自分たちでできる分だけ）。できたしこ」ではあるが、ふるさと岳間の愛を形にしながら、これからもここでの生活を男女、年齢関係なく、すべての人と楽しみたいと思う。

（山鹿市鹿北市民センター地域係　北原チヅ）